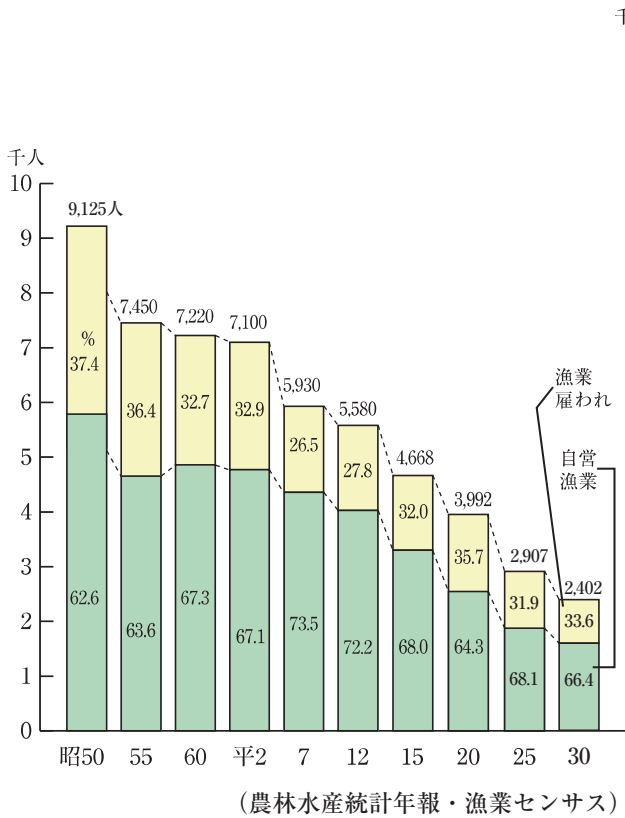


# 3 水産部門

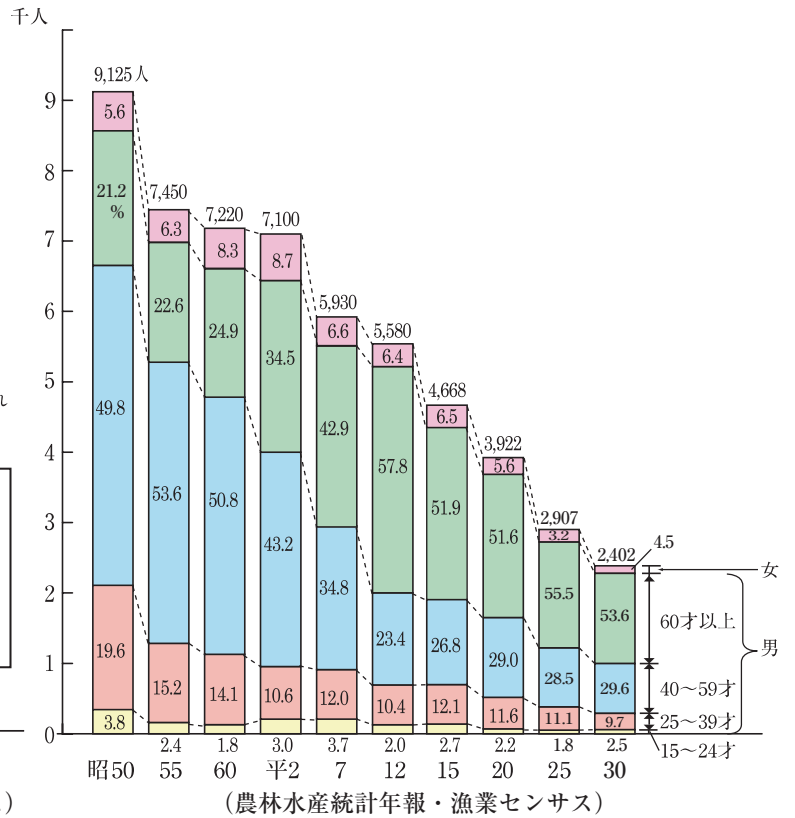
## 1) 水産業を担う人々

漁業就業者数は減少傾向で推移しており、平成30年は2,402人である。  
 また、漁業就業者のうち年齢別では60才以上の男子就業者が53.6%を占め、高齢化が進んでいる。

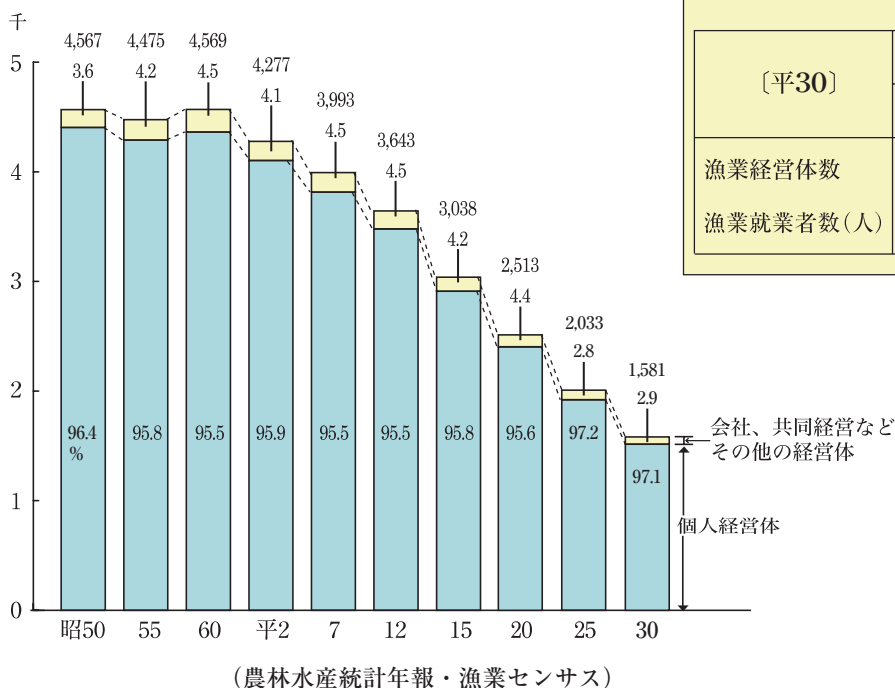
漁業就業者数の推移



年齢区分別漁業就業者数の推移



漁業経営体数の推移



漁業経営体数等

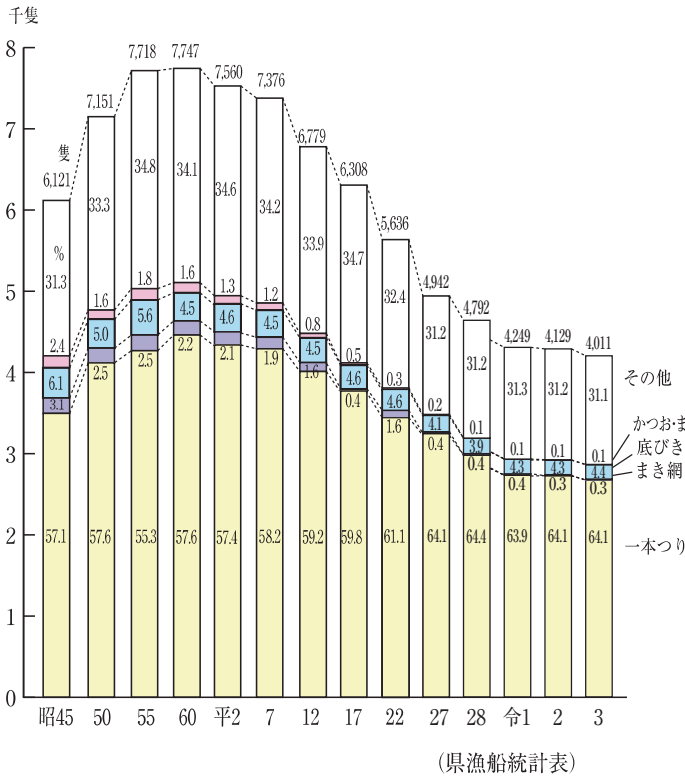
[平30]	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	実数	実数	順位	シェア (%)	県名	県名	県名
漁業経営体数	79,067	1,581	21	2.0	北海道	長崎	青森
漁業就業者数(人)	151,701	2,402	23	1.6	北海道	長崎	青森

(2018年漁業センサス)

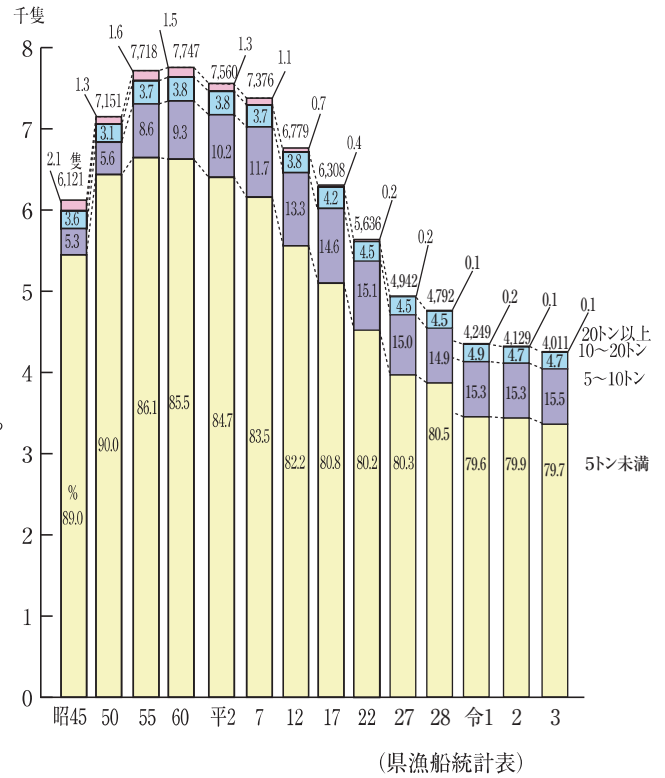
## 2) 水産業の基盤

海水動力漁船数は昭和60年をピークに減少傾向にあり、令和3年12月末日現在では4,011隻となっている。漁業種別では「一本釣り」が64.1%、「底びき網」4.4%である。トン数別では5t未満の小型漁船が79.7%と大半を占めている。

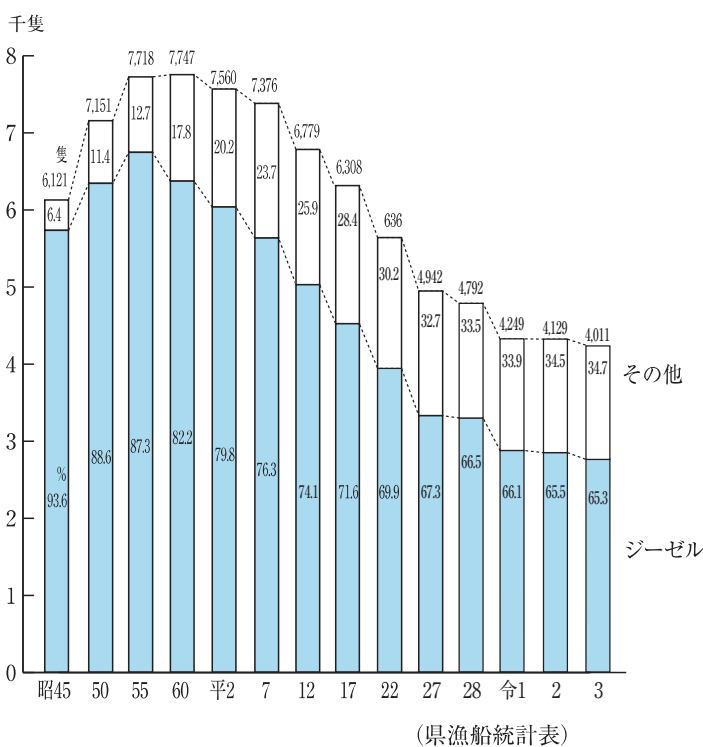
### 漁業種別海水動力漁船数の推移



### トン数階層別海水動力漁船数の推移



### 機関種別海水動力漁船数の推移



### 漁港の現況

本県には、94港（全国2,785港）の漁港（令和3年4月1日現在）と、119地区（全国4,492地区）の漁港背後集落（令和2年度末時点）がある。また、漁港の種類は、その利用範囲によって下表のように分類されている。

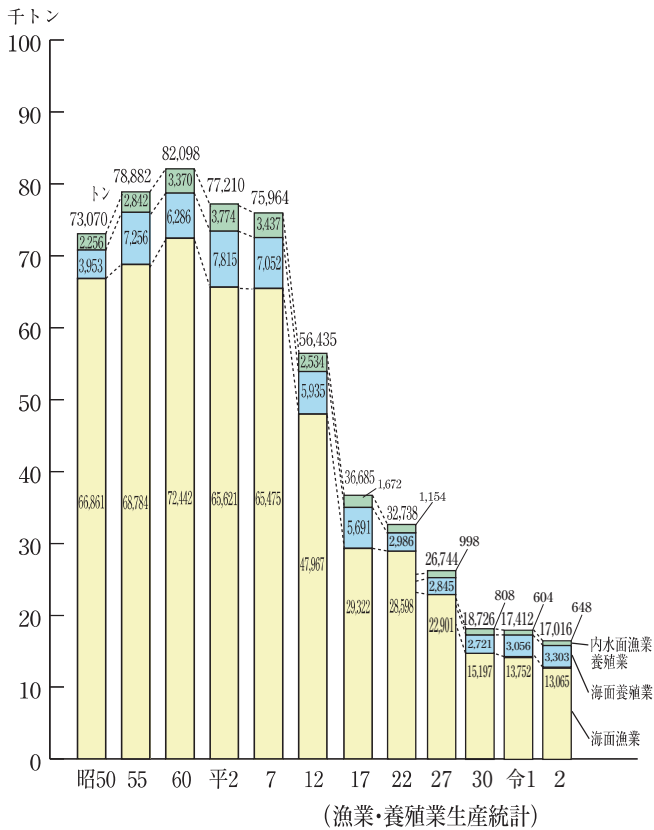
種別	漁港合計	分類の説明
第1種漁港	77	利用範囲が地元の漁業を主とするもの
第2種漁港	11	利用範囲が1種より広く3種に属さないもの
第3種漁港	4	利用範囲が全国的なもの
第4種漁港	2	漁船の避難上特に必要なもの
港合計	94	

### 3) 水産業の生産

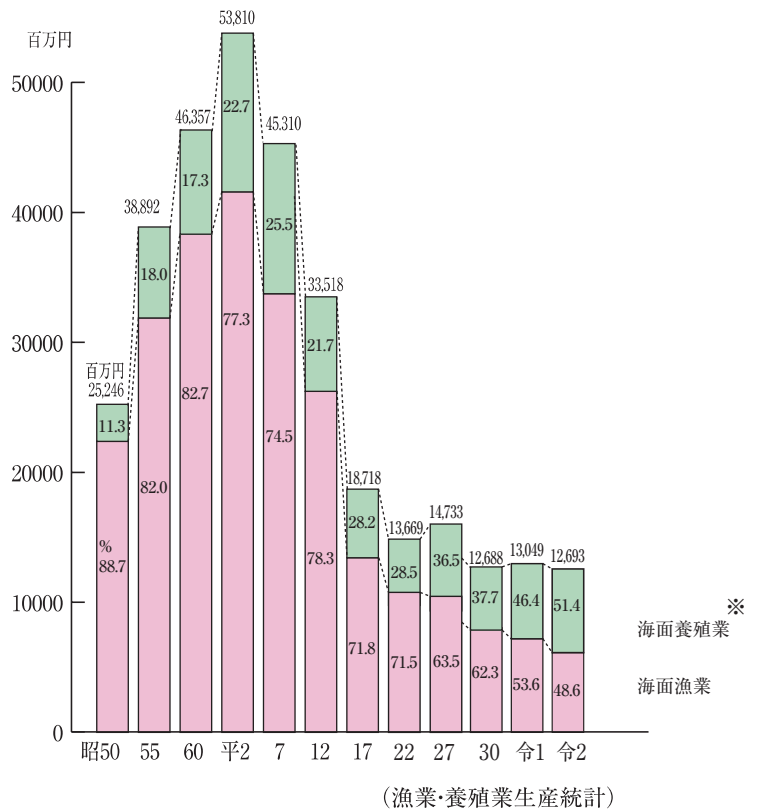
海面漁業・養殖業の生産量は昭和61年の88,108 tをピークに減少傾向にあり、令和2年は16,368 tとなっている。

海面漁業・養殖業産出額は平成2年をピークに減少傾向であり、令和2年は126億93百万円となっている。

漁業・養殖業部門別生産量の推移



海面漁業・養殖業産出額の推移



※海面養殖業産出額については、平成29年より種苗の産出額が計上されないこととなり、平成19年以降の数値は種苗の産出額が含まれないものに修正されたため、平成18年以前と平成19年以降は連続しない。

生産量

〔令2〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	(t)	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
海面漁業	3,213,334	13,065	30	0.41	北海道	茨城	長崎
魚類	2,601,770	12,180	28	0.47	北海道	茨城	長崎
えび・かに・いか・たこ	147,865	409	36	0.28	北海道	青森	兵庫
貝類	382,404	40	38	0.01	北海道	愛知	千葉
海藻類	63,392	283	18	0.45	北海道	愛知	大分
海面養殖業	969,649	3,303	23	0.34	広島	北海道	宮城

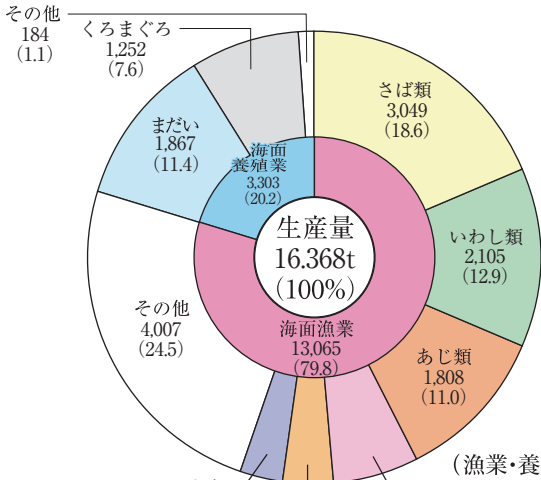
産出額

〔令2〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	(百万円)	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
海面漁業	773,483	6,164	27	0.80	北海道	長崎	宮城
海面養殖業	436,847	6,529	19	1.49	愛媛	鹿児島	長崎

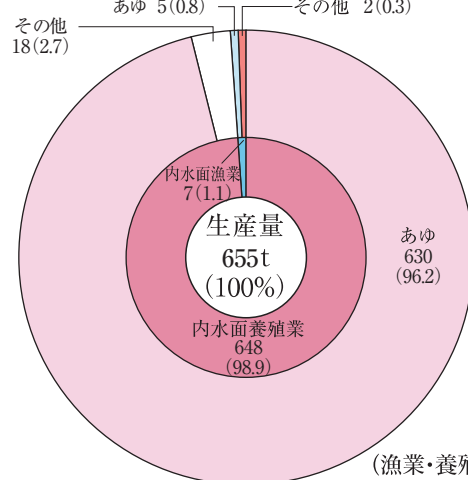
## 4) 主な魚種別漁獲量・産出額の推移

令和元年の魚類別の生産量は、海面漁業では、さば類23.3%、いわし類16.1%、あじ類13.8%、まぐろ類7.7%となっている。海面養殖業では、まだいが56.5%、くろまぐろが37.9%を占め、内水面養殖業では、あゆが97.2%となっている。

海面漁業、養殖業魚種別生産量（令2）

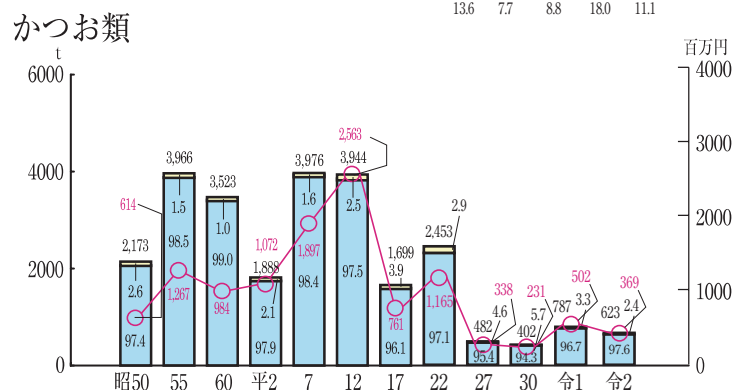
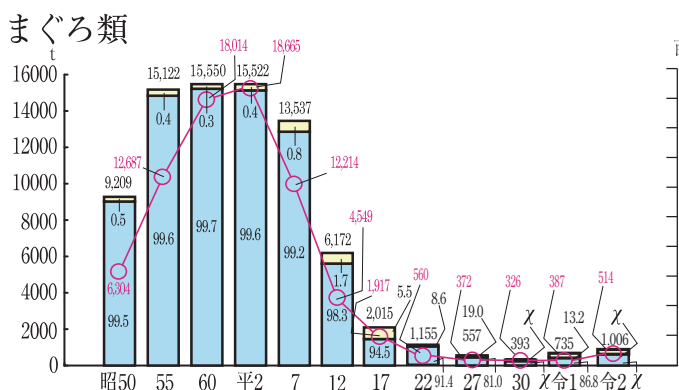
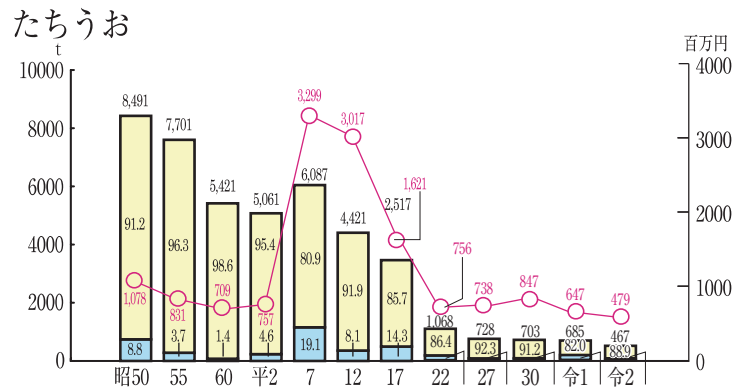
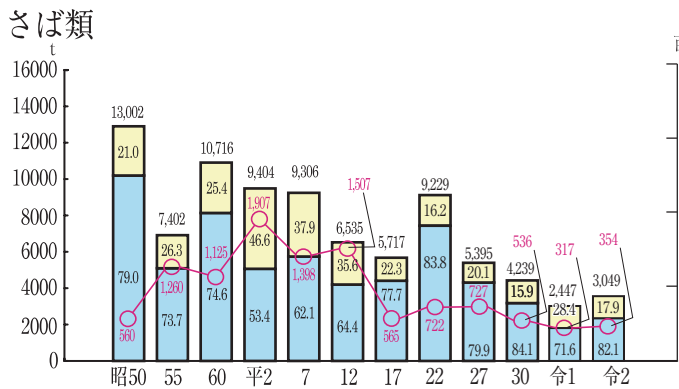
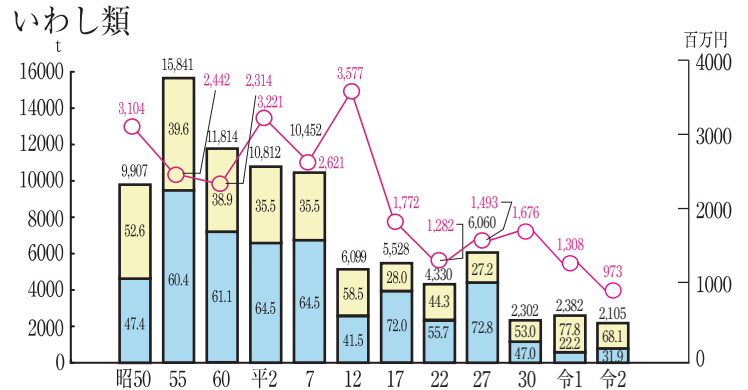
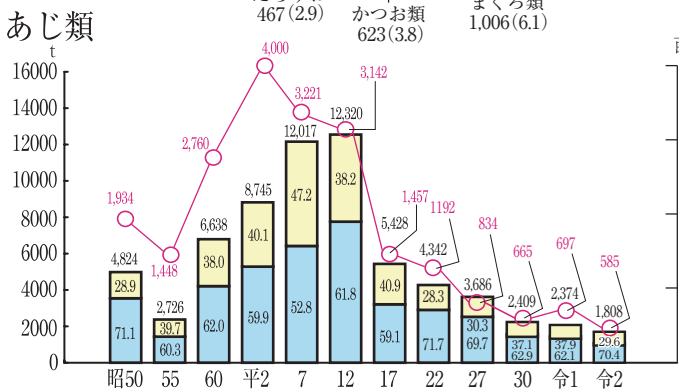


内水面漁業、養殖業魚種別生産量（令2）



(漁業・養殖業生産統計)

(漁業・養殖業生産統計)



漁獲量 瀬戸内海区 太平洋南区

産出額 (百万円)

※「X」は統計法に基づく秘密保護のため、公表されていないものです。

(漁業・養殖業生産統計)